

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 11月 22日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200577		
法人名	有限会社メディカルサービス廿日市		
事業所名	グループホーム千同ひまわり		
所在地	広島市佐伯区千同2丁目6-29 電話 082-924-2567		
自己評価作成日	平成28年10月16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200577-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年11月7日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域の方との交流も盛んで千同保育園（運動会ごっこや玉ねぎ掘り）や子供神輿、町内の夏まつり、地域のボランティアの方（フラワーアレンジメント・バンド演奏会・歌声ユニットなど）に来て頂いていて、入居者様も楽しまれている。外出が難しい方にも、いつもと違う雰囲気楽しく過ごして頂いている。11月末には、地域の方よりイルミネーションを頂けるとのことで、装飾し地域の方に見に来てもらい名物になればと話している。また、運営推進会議では、災害時の協力体制についても話合っている。グループホームの行事として、外出（パークゴルフ・バラやあじさい鑑賞、カープ観戦、湯来ロッジなど）、外食を多く取り入れ、刺激のある生活を送っていただき、また季節を感じて頂くようにしている。ご家族の方とも積極的にコミュニケーションを行い、要望を日々の生活に取り入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

地域住民の当事業所に対する理解促進に努めており、地域行事への役割を持つての参加や、ボランティアの訪問に留まらず、クリスマスのイルミネーション・正月の門松作りなど、事業所への積極的な提案・支援が行われている。また、万一の火災に備えた自動火災通報装置には、協力を得られる地域住民の電話番号も登録している。運営推進会議の議事録から、事業所が事業所運営・利用者の生活状況を丁寧に説明し、地域住民・地域包括支援センター職員・利用者家族からの活発な質疑が取交わされており、地域の介護拠点としての事業所への期待が伺える。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	活動目標を「地域との交流を大切にします」と定め、積極的に地域活動に（夏祭り、秋祭り、保育園運動会など）参加している。	「ふれあいと安心」という事業所理念のもと、ケア目標「入居者が安心して笑顔で暮らせる環境を目指します」ならびに、活動目標「地域との交流を大切にします」を定め、具体的なケアの実践につなげ、安心して暮らせる環境づくりに努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会の行事に参加したり（町内清掃、グランドゴルフなど）大正琴、フラワーアレンジメント、習字などのボランティアの方々が訪れて下さっている。	利用者が地域で生活することを重視し、活動目標にも定め、地域行事に積極的に参加しつつ、地域住民の認知症高齢者に対する理解促進に努めている。地域住民からは、事業所の門松づくりやクリスマスのイルミネーション作成等積極的な提案が寄せられ、事業所行事への協力関係が年々強まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方、身内の方、知人の方が利用を考えておられ、見学に来られたいと言われた時には、相談しやすい環境にしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	利用者様の御家族、地域の方々からの色々なご意見を伺い職員で話し合いケアに生かしている。	利用者家族からは、家族の視点からの利用者の暮らしに関する意見が毎回積極的に寄せられ、地域住民からは、地域行事への事業所職員・利用者の役割分担などが積極的に対案され、利用者の地域での状況に応じた暮らしに活かされている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議には、地域包括支援センターを通じて伝え、議事録を区役所へ持参している。	管轄の地域包括支援センター職員が、運営推進会議に全て出席し、事業所・地域包括支援センターの双方向の情報共有に努めている。アルツハイマーデーなどの行事を通じて、行政とも積極的に連携を図ることを検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>職員全体が身体拘束に対して共通の認識が持てる様、研修や勉強会への参加を呼びかけている。また、日中は玄関を開錠しており、自由に入出りできる環境づくりに努めている。</p>	<p>広島市による集団指導での資料を使用した事業所内研修により、身体拘束の弊害を理解し、ケアの基本的あり方に遡り検討するなど、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>グループホーム内での勉強会、外部への研修への参加を行い、虐待についての知識を深めるよう努めている。日々のケアの中でも虐待が見過ごされることがないように、職員同士、気を付けてケアに当たっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>入居者様お一人おひとりに合った制度の紹介や、話し合いの機会を持てる様に支援している。勉強会や研修などで、学ぶ機会を持てるよう支援している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、疑問や不安な点にお答えし、十分に説明したうえで、納得、理解をして頂ける様努めている。利用後も変更等ある場合は、随時、書類をお渡しして説明を行っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族会にて意見交換できる場を設けたり、運営推進会議にて要望をお聴きしたりと、細かな対応が出来るよう努めている。玄関に意見箱を設置し、運営に反映させるよう努めている。</p>	<p>家族会ならびに運営推進会議などを通じて、職員の異動等の事業所の状況ならびに利用者の状況を積極的に家族に伝えることで、家族からの具体的かつ建設的な意見や要望が寄せられている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回のスタッフ会議にて、職員の意見を聞く機会を設けている。また、職員からの提案等あれば、そのつど管理者が受け、運営に反映させている。	毎月開催するスタッフ会議での意見聴取ならびに、全職員アンケートの実施などにより、職員の事業運営に関する意見・提案を聞く機会を設け、職員の子弟の保育に関する補助や、事業所の清掃方法の検討等に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課にて定期的に面談を行い、日頃の思いや目標などを詳細に聞き、把握するように努めている。勤務表作成時には、職員の体調や個人の事情等にも配慮して作成を行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	グループホームで、月一回の勉強会を担当者を決めて行っている。外部研修の情報が入りやすい様、回覧で知らせ、声掛けすることで、学ぶ機会を増やすよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	関連法人のグループホームへの見学や研修を行い、相互に良いところを取り入れ、各事業所のサービスの向上を心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前にご本人、ご家族と面談を行い、情報収集を行っている。今まで関わってきたケアマネジャーからも情報を得て、関連法人の相談員とも協力しながら、信頼関係が築ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前にご家族、ご本人に見学に来て頂き、要望や不安等の聞き取りを行っている。ご家族との関りを大切にし、何でも話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	その都度、お話をさせて頂き、その時に必要と思われるサービスを選択し提供できるよう努めている。訪問歯科等、法人以外のサービスも利用して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	認知症という病気を理解するよう努め、共に暮らしていくという意識を持ちながら、ケアにあたるよう努めている。時にはご利用者から教えて頂いたりしながら、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族を支援される一方の立場には置かず、ご利用された時点から、ご家族との会話を大切にしている。ご家族の置かれた状況に気を配りながら、可能な限りの支援をして頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご利用者様が通っておられた理美容に通えるよう、ご家族と協力しながら支援している。ラーメンを食べに行くのがお好きな方にはお店で食べて頂き、雰囲気を感じて頂ける様支援している。	利用者の馴染みの関係を、家族等の協力も得つつ継続する支援に努めている。なお、利用者の写真アルバムを使ったインタビューなど、利用者の馴染みの人や場所をより深く理解する取り組みを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	テーブルでひとりになっておられたら別のテーブルにお誘いし、孤立しないように気を付けている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	長期入院のため退去された方についても、時々、職員が面会に行き、病状やご家族の心配や不安な事などを傾聴している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	3か月毎のケアプラン作成時、ご本人に思いや意向、願い、要望をお聴きしている。意思を伝えるに難しい方は、日々の会話や行動から把握するよう努めている。	職員は利用者と一緒に話をする時間を作りその方の思いを把握し、行動を理解するよう努めている。概ね3ヶ月毎にセンター方式のアセスメントシートを使い、「本人・家族の発言」「担当者の気づき」を記録し、ケアプランに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人からは日々の会話の中からお聴きし、面会時にはご家族からもお話を聴くなどして、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	会話など日々記録し、スタッフ間での状態の把握に努めている。定期的にカンファレンスを行い、スタッフ間で情報交換を行い、把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>担当者を中心に、日頃の申し送りやカンファレンスの中で意見や情報を収集し、ご家族のニーズに合ったケアの提供が出来るよう努めている。</p>	<p>ケア担当者が作成した原案を基に、カンファレンスを行い、計画作成担当者が介護計画に仕上げている。連絡ノートやスタッフ会議を活用し、各職員のアイデアや意見を聞くなどし、ケアの統一に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の気づきや出来事を連絡ノートに記載し、職員間での情報の共有に生かしている。記録の際はケアプランに沿った記録が出来るよう、いつも閲覧できるところにケアプランを入れ、ケア実践に努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人やご家族の状況に応じて、通院や外出など柔軟に対応している。また、地域の方やボランティアとも協力し、既存のサービス以外の提供も出来るよう取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>グループホームでの家族会をはじめ、近隣の保育園児が訪ねてきたり、子供会の神輿が来ている。町内会の夏祭りでは職員とご利用者が司会を務めるなど、地域の方と協力しながら支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>眼科や歯科医などは往診も選択できるようにしている。利用前にご家族とご本人と相談し、十分な説明のうえ、適切な医療を受けられるよう支援している。特に希望がない場合は、協力医への受診を支援している。</p>	<p>利用者の希望するかかりつけ医の選択を支援したうえで、必要に応じ訪問看護とも連携し、医療・事業所・利用者および家族の双方の情報共有により、適切な医療を受けられるよう支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>ご利用者毎の個別ノートを作り、気づき等は訪問看護師に対応してもらい、職員の看護師には、分からない事などは相談し、介護士が出来ない事などはお願いして、処置してもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病院の相談員、看護部長との連携は出来ており、ご利用者が安心出来る様になっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>ご本人、ご家族の意思を尊重し、主治医と連携しながら対応している。看取り項目は、約款に明記している。</p>	<p>看取りに関する方針を利用約款により説明し、早期から重度化した場合や終末期に向け、利用者および家族が考える機会を設けて支援し、方針の共有に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急連絡網を作り、職員が全員分かる様にし、緊急対応が出来る様になっている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>毎月、火災訓練を行い、消防署の方には年2回来て頂き、自動火災通報装置には地域の方々の電話番号も登録している。火災時には、地域の方々からの協力も得られる様に対応している。</p>	<p>年に2回の火災訓練を、消防署の指導のもと実施するとともに、毎月、職員が立案して火災訓練を実施し、万一の火災の際に利用者の安全な避難誘導が行えるよう取り組んでいる。また、自動火災通報装置で、地域の方にも火災発生を知らせることができるよう、電話番号を登録するなど、地域住民の協力が得られる取組みを進めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	居室へ訪室の際は、ノックと挨拶して入室をおこなっており、排泄介助では尊厳を損なわないよう、お声がけをしている。	排泄や入浴に関する支援において、尊厳を損なわない声掛け等の支援に配慮すると共に、居室への入室に関してもプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入浴後の洋服選びの際、どれを着用するか選んでいただいたり、移動パン屋さんではお好きなパンを自身で選んで頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人、ご家族の希望をケアプランに取り入れ、実行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	髪のカットでは、馴染みの店をご希望の方には、お店への同行送迎を行っている。洋服選びでは、ご本人の好みや、洋服の色や柄を考えて選んでもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	畑で採れる野菜をご利用者と一緒に収穫し、それを調理してお出している。ご利用者と一緒に焼うどん、おはぎ作り等を行ったり、食器洗いやお膳拭きを日課として手伝って頂いている。	事業所内の菜園で栽培した野菜を、利用者等と収穫し、食材として使用し、調理や食器洗い等の片づけを利用者とともにするなど、食事を楽しむ支援に取り組んでいる。	利用者が能力を最大限発揮し、人として当たり前の食事をとるための支援について、座位姿勢が重要との観点からも再度学習を進め、ケア目標である、安心して笑顔で暮らせる環境づくりが、より一層進むことを期待する。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>栄養のバランスも考え、個々に対応して食べられる量の調整をしています。水分もおやつの時に、ご利用者が飲みやすい物をお出ししている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>必要な時には、訪問歯科に受診して頂き、食後の口腔ケア、義歯のお手入れをして頂き、口腔ケアが出来ない時には、職員がお手伝いしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>生活行動記録などから、ご利用者の排尿パターンを探り、ご本人がトイレで排尿出来る様支援を行っている。</p>	<p>生活行動記録などから、利用者の排泄パターンを探り、トイレで排尿出来る支援を行っている。</p>	<p>排泄のメカニズムについて学習を進め、日々の食事・摂取水分量・運動等のケア目標と排泄を関連づけて支援し、利用者の排泄の自立がより一層進むことを期待する。</p>
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>体操をしたり、水分を多めに取って頂く様にし、便秘をする方には主治医から薬を処方して頂き、調整をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>なるべく、ご利用者の希望に合わせて入浴して頂いている。シャワー浴の方には、足浴をして頂きながら、洗体を行っている。</p>	<p>事業者側のスケジュールに拠らず、利用者の希望により、入浴を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの生活習慣や、その時々体調などに応じて、お昼寝をして頂いたり、いつでも自由に休んで頂ける様、お声かけしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人ひとりの病名、内服薬、用法、用量を記載した一覧表は、記録用紙の一番上にはせてあり、副作用記載のしおりや処方箋は個別にファイルしており、すぐに見られるところに保管してある。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりが出来る事（編み物、ハーモニカ、写経、折り紙、塗り絵、家事活動など）が、ほぼ、毎日出来るよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>近所への散歩を日課としているほか、地域の夏祭りや保育園、運動会などに参加したり、日帰り温泉旅行やマツダスタジアムでカーブ観戦など、普段は行けない外出を支援している。</p>	<p>近所の散歩を日課として、運動や季節の変化に触れることに取り組んでいる。地域住民の理解と支援のもと、地域の行事にも役割を持って参加したり、家族と共に日帰り温泉旅行やプロ野球観戦など、非日常的な外出にも積極的に取り組んでいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ご家族の了解を得て、ご自分で管理できる方には所持して頂き、買い物で使ってもらっている。管理が困難な方には立て替えて、後でご家族に請求している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>電話をご利用のご希望があれば、お取次ぎしている。携帯電話を持っておられる方には、操作でお困りなどあればお手伝いしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有空間であるリビングはゆったりとした広さと日当たりで風通しも良く、快適に過ごしていただけるよう、ソファやマッサージチェアを設置している。</p>	<p>共用空間は、利用者の不快や混乱を招くような刺激は無く、間接照明とも相まって、落ち着いた雰囲気である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングと廊下にソファや椅子が置かれており、独りになれたり、気の合う方と並んで話ができるようなスペースを設けている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れた家具を持ち込まれたり、ご家族の写真を飾られたり、鉢植え、冷蔵庫、趣味でご愛用の楽器を置かれるなど、ご利用者が居心地よく過ごせるよう、工夫がなされている。</p>	<p>家具や調度品、鉢植え、家族の写真等、利用者ならびに家族と相談し、利用前の環境との継続性を考慮した支援を行っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>安全に移動できるよう、要所々に手すりを設けており、車いすやシルバーカーの離合が安全に行えるよう、広いスペースと配置をしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム千同ひまわり

作成日 平成28年12月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	40	一人ひとりに合った食事の姿勢がとれていない。	入居者様、一人ひとりが能力を最大限に生かし食事する事ができる。	食事についての学習時間を作る。入居者様、一人ひとりに合った問題点をみつけ工夫し実行する。	1 2 か月
2	43	薬に頼りがちな排泄になっている。	なるべく薬に頼らず、自然な排泄できる。	排泄についての学習時間を作る。入居者様に合った、生活の楽しみの中で水分摂取や運動等を取り入れる。	1 2 か月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。